

2022 年度（令和4年度）学校評価自己評価表

中央中学校区

校番 1

福山市立 東 小学校

最終更新日

2023年（令和5年）2月1日

Ⅰ 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	【学びに向かう力】	【課題発見・解決力】	【自己肯定感】
・コロナ禍の中、各学校感染拡大防止策を考え工夫されて学習、行事に取り組まれている。子どもたちが、学校が楽しいと感じられるように校区の学校が取り組んでほしい。 ・評価項目の8項目において、十分満足、概ね満足できるという肯定的評価をいただいており、引き続き努力してほしい。	○子ども主体の学びづくりの中で、主体性が育ちつつある。 ○小中で授業研究をすすめる、自分の考えを表現する力をつけてきている。 ●不登校傾向にある児童生徒数の割合が中学校で高い。 ●家庭での学習習慣をより主体的に進めていく必要がある。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	ふるさとを愛し、地域の中で、伸びやかにたくましく成長している		
		中学校区として統一した取組等	1 校区合同で実施する授業研究 2 生徒会、児童会による「いじめSTOP集会」や「あいさつ運動」の実施 3 校区校長会、校区教頭会、校区各主任会等を通しての連携		

Ⅲ 自 校

ミッション		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	学びに向かう力	課題発見・解決力	自己肯定感	
自分達が望む未来を自分達で創りあげていく力をもつ子どもの育成 ～「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを通して～		めざす 子ども像	低 学 年	目標を決め、自らを 振り返りながら取り 組む	友だちの考えをしっか り聞き、自分の考えをも つ	友だちと関わり合いな がら、自分のいいところ に気付く
学校教育目標			高 学 年	目標を決め、自らを 振り返り、学び続け る	自ら「問い」を見つけ、 自分なりの工夫をしな がら課題解決をしてい く	自分の良さ、友達の良さ に気付き、自分のやりた いことに挑戦する
主体的に学び 仲間とともに 未来を創る力を育む						
現 状		研究	テーマ	想像豊かに探求していく学びの創造		
<家庭・地域> ○保護者の教育的関心が高く、家庭での支援・協力が得られる児童の割合が高い。 ●運動に対する関心が低く、運動量が不足がちで体力がつきにくい。 <児童> ○コロナ禍の中でも自分達にできることを探し、創意工夫して、企画、実行する力が付いてきた。 ●友達の気持ちや状況に気づかずトラブルになったり、困ったことがあっても自分達で考えて解決することが苦手だったりする傾向がある。 <授業> ○児童は課題を解決しようと最後まで取り組むことができる。 ○教職員に教科の本質を追究する姿勢がある。 ●児童が内発的動機付けに基づいて、自ら「問い」を見つけて探求的に学習を進め、児童が「学ぶことが面白い」と実感できる授業づくりが必要である。			内容等	○社会科・体育科の授業づくりを通してテーマに迫っていく ・仮説や問いを立てながら単元を貫く「問い」を探究する<社会科> ・地域素材を再評価し、自ら社会に関わろうとする意欲を育てる<社会科> ・自分の課題に気づき、自分達で決めた方法で試行錯誤しながら協働して解決する<体育科>		
		めざす授業の姿	・子どもが想像を働かせ、自ら探究的に学習を進め、新たな「問い」や新たな「価値」を創り出す授業 ・知的好奇心や意欲など内発的動機付けによって「学びが面白い」と実感する子ども主体の学びを創り出す授業 ・教師が子どもの学びを最大限に引き出し、自ら学べるように環境をつくり、学びを支えている授業			

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 東 小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	力 _ベ ス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 _ベ ス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
4	主体的・対話 的で深い学び の推進	★	見 直 し	「認知のしくみ」 から学習方法を 見直す	子どもが想像を 働かせ、自ら探 究的に学習を進 め、新たな「問 い」や新たな「価 値」を創り出す 授業を実践する。	・「学力の伸びを把握 する調査」学力を伸 ばした児童；市平均 以上 ・「全国学力・学習状 況調査」自己肯定感 に係る質問に肯定 的に回答した児童 ；市平均以上 ・児童アンケート「学 ぶことが面白い」 85%以上	研究授業を7回(講師招 聘授業3回)行い、児童 の学びの姿から授業を 検証した。 ・「学力の伸びを把握する 調査」学力を伸ばした児 童；市平均以上 ・「全国学力・学習状況調 査」自己肯定感に係る質 問に肯定的に回答した児 童；市平均以上 ・児童アンケート「学ぶ ことが面白い」88.9%	4	3	○児童と共に「問 い」や「課題」「単 元計画」を創り、主 体的に学んでいく 授業づくりをする。 ○授業での学びを実 生活とつなげて考え られるような学習展 開を行う。 ○漢字テストの「マ イプラン化」と週末 学びチャレンジの 取組を継続し、学び の質を広げたり深 めたりする。	「問い」や「課題」が生 まれる資料にこだわった り、学んだことを発信した りする授業づくりを行っ た。 ・児童アンケート「学ぶこ とが面白い」91.5% 「授業や学チャレは楽し い」89.1%「授業や学 チャレを通して学びを深め ることができた」89.3% ・自主的に漢字検定を受験 した者25%(77人)	4	4	4	○全学年で社会科と総 合的な学習の時間や生 活科をリンクさせ、児童 の興味・関心から「問い」 「課題」「単元計画」を 児童とともに創る授業 づくりを行う。 ○来年度も漢字テスト の「マイプラン化」と週 末学びチャレンジの取 組を継続していき、学び を広げ、質を高めてい く。
6	子ども主体の 健康・体力づ くりの推進		見 直 し	自分の健康や体 力づくりの課題 に気づき、自己 目標を決めて、 取り組んだり振 り返ったりする ことができる	自己の課題に気 づかせ、自分に 合った解決方法 に取り組ませる	・児童アンケート「自 分で決めた方法で取 り組んでいる」80% 以上 ・「全国体力・運動能 力、運動習慣等調査」 運動やスポーツが「嫌 い、やや嫌い」と回答 した児童の割合；市平 均以下	学校行事や授業の中 で「自分で選ぶ、決め る」の場面を作り、振 り返りながら自ら取 組を考えさせた。 ・児童アンケート「自分 で決めた方法で取り組ん でいる」87.9% ・「全国体力・運動能力、 運動習慣等調査」運動 やスポーツが「嫌い、やや 嫌い」と回答した児童； 市平均以下	3	3	○授業の中だけで なく、朝体育やわく チャレの取組を体 育委員会や6年生 を中心に行い、自分 達で健康や体力づ くりを進めていけ るようにする。 また、継続して学び の振り返りに取り 組み、自己効力感の 醸成も図る。	児童のアイデアを活か した「わくチャレ」の実施や 朝体育で体育委員会を活 躍させるなど、児童が「考 え・選び・決める」場面 を設定した。また、ICTを 活用して振り返りを行い、自 己の課題に気づかせた。 ・児童アンケート「自分 で決めためあてが解決で きるように工夫した」 89.3%	3	3	3	○学校行事や授業の中 で「自分で選ぶ、決め る」の場面を作り、振 り返りながら自ら取組 を考えさせていく。ま た、その際は、自己評 価・他者評価を取り入 れ、自己の課題に向き 合い、解決方法を多様 に考えさせていく。
3	教職員が元 気・笑顔で勤 務できる環境 の充実		見 直 し	教職員が個性を 発揮しながら、 子ども達ととも に自ら挑戦し続 ける	教育の質の向上 の視点を持ち、 業務改善を進め る	・「福山100NEN教育 アンケート」個性が認 められていると感じ る教職員の割合；市平 均以上 ・時間外在校時間の 上限を超える教職員の 割合；0%	タブレットを活用し ての情報共有、若手教 員の人材育成も兼ね たOJTにより、個々 の負担軽減を図った。 ・「福山100NEN教育ア ンケート」個性が認め られていると感じる教職 員；市平均83.3%、本 校；81.8% ・時間外在校時間の上限を 超える教職員の割合； 0%	3	3	○主任・主事を中心 として、「子ども主 体の学び」「働き方 改革」の二つの視点 で、端末の活用を効 果的に行い、業務改 善を推進していく。 ○他の教職員(自校も 他校も)の授業から学 ぶ機会をつくり、自分 の授業を振り返りな がら授業力の向上を めざす。	・職員室に大型モニターを 設置し、1日や1週間の 見直し、締切の早めのお知 らせなどを行った。また、 モニター前での教職員同 士の対話も増え、業務改善 につながった。「時間外在 校時間の上限を超える教 職員の割合」；0% ・他校の授業や理論研修に 参加する機会を10回以 上設けた。他校の授業者の 実践や教材研究の深さを 知り、教職員のモチベー ションが上がり、授業改善 の助けになった。	4	3	3	○教務主任便り、研究 主任便り、特支コー ディネーター便り、「学 チャレ」通信の発行、取 組チェックシートも作 成などを活用すること で、組織の方向性や目 指したいことを共有 し、業務改善につなげ る。 ○出前授業の活用や地 域の人材の活用で、教 職員の負担軽減や授業 の質の向上を図る。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。